櫻川

特113
889

始

特113
889

櫻川（さくらがは）

内之部巻之十一ノ四

役別	装束	東附所
シテ	櫻子の母	〔面〕曲見　深井にても（前後とも）　襠　袴　同帶　着附箔　唐織着流し　扇
後シテ	同（狂女）	上腰巻　腰帶　水衣　網　扇　其他前同斷
子方	櫻子	襠　着附縫箔　長袴　扇
口キ	磯部寺住僧	大口僧
ツレ	從僧二人	右同斷
前ワキツレ	人商人	素袍男一人、文箱中

季	所	類別	番目
月	常陸國櫻川邊		四

大正
5.4.7
内交

解　説

始めワキツレ出で、舞臺に入り『加樣に候者は』と謠ひ『只今櫻子の母の方へと急ぎ候』と、橋懸へ行き、幕へ向き、『いかに案内申候、櫻子の母の渡り候が』と、シテを呼び出す。シテ、扇持ち出で

ニ枚表 シテ詞 『誰にて渡り候ぞ』　と、謠ふ。『かまへて確かに屈け申して候』にて、ワキツレ文を シテへ渡す。シテ受取り、正へ向き、文開き見、

同 シテ 『扨も〳〵此年月の御有樣』　と ハツキリ謠ふ。ワキツレ、シテの後を通り幕へ引く。

三枚表 同 地同 『名残惜しくは何しにか』　初同しつとりとつけて謠ふべし。

『獨り伏屋の柴の戸の』　此處にて文疊み、左に持ち、『明し暮して……』　にて舞臺に入り、『櫻子とめてたび給へ』と、合掌『泣く〳〵迷ひ出で、行く』にてシテ リ、中入。

次第にて、子方、ワキ、同ツレと出で、舞臺に入りて向き合ひ謠ふ。

四枚表 ワキ次第 『頃待ち得たる櫻狩』　此處ハツキリ謠ふべし。名宣、道行同斷。着詞濟み、子方より頂にワキ 席に行き下にゐる。

一聲にて、後シテ、網を肩げ出で、橋懸にて、

五枚表 シテ 『いかにあれなる道行人』　と、謠ひかけ、『悲しやなさなきだに』より氣を變へ謠ひ

『花にやうとく雪の色』と、舞臺に入り、『櫻花』と、カケリ、留め『櫻花散りに し風の名殘には』とかゝりて謠ふ。

六枚表 シテ サシ 『是に出でたる物狂の』　此處は納めて謠ふべし。

六枚裏 シテ 詞 『爰に又名に流れたる櫻川とて』　此地はしつとりと而も輕くつけ、『花鳥の立別れつゝ親

七枚表 地 『散り浮く花の雪を汲みて』 と子の』より氣を變へ謠ふべし。

七枚裏 ワキ 詞 『如何に是成狂女』　ワキはシテへかゝり謠ふ。以下懸合宜しくありて。

十枚表 地 『常よりも春邊になれば櫻川』　と、かゝりてつけ謠ふ。シテに形種々あり。『實に面白 き河瀬かな〳〵』返しにて橋懸へ行く。と、ワキ直ぐに、『荒笑止や』と、謠ふ。

十一枚表 シテ 『流れぬ先に花すくはん』　此處にてシテ、又舞臺に入る。以下懸合宜しくあり、

十一枚裏 地 次第 『散れはぞ浪も櫻川』　と、かゝりてつける。地取りにてシテ、くつろぎ、網捨て、扇持つ。

十二枚表 地 『雪を受けたる花の袖』　と、イロエ。

同 クリ シテ 『夫れ水流花落ちて春長なへにあり』此處引立てゝハツキリ謠ふべし。以下サシ、クセへか けてシテに形種々あり、見計ひ謠ふ事勿論なり。但し口傳。

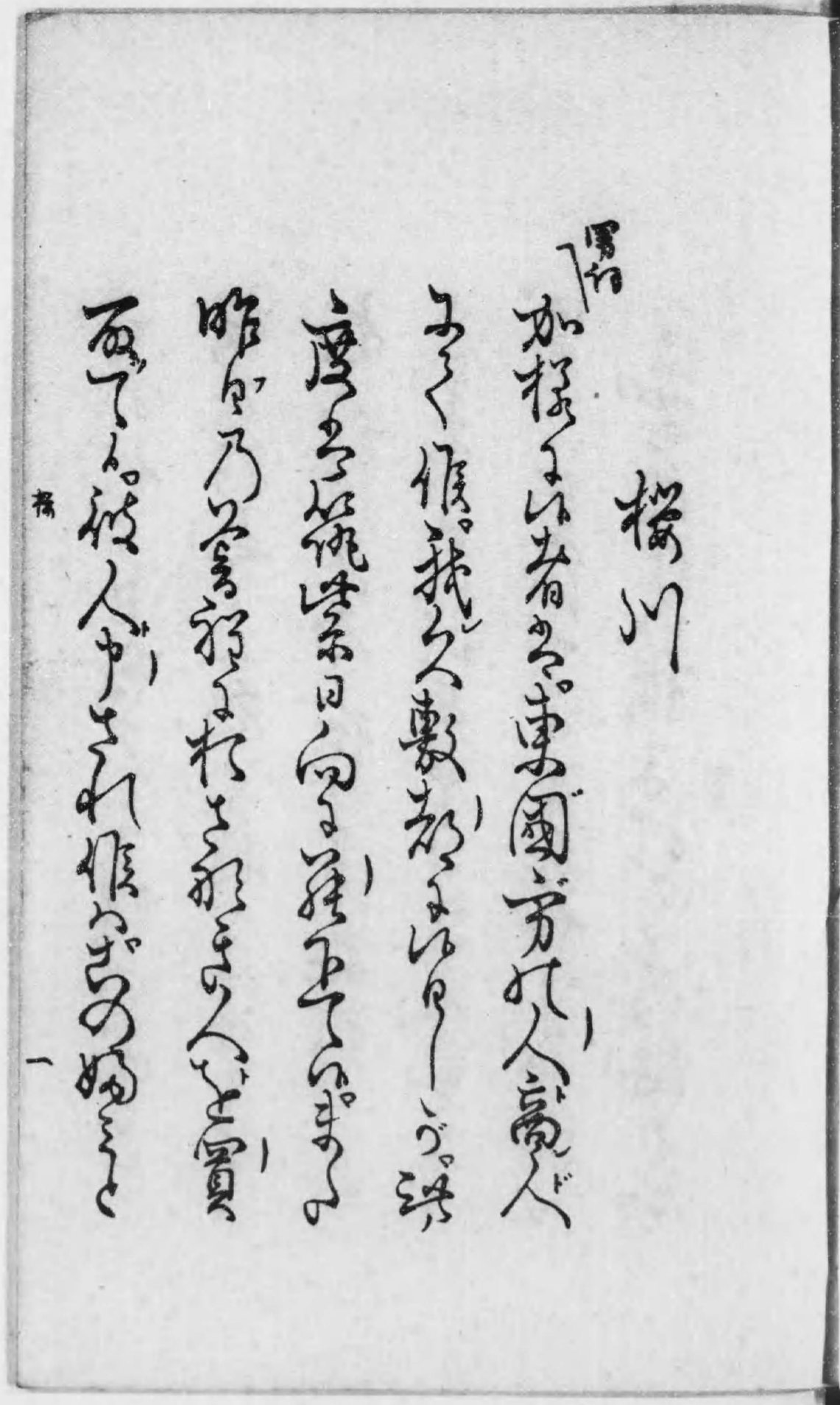
十六枚表 ロンギ 地 『いかにやいかに狂人の』　此地はシテへかゝり謠ふべし。

同十六枚裏 『親子の契り朽ちもせぬ』此處にてワキ、子方を立て、シテの方へ少し出る。

十七枚表

『逢ふ時も啼く音こそ』　と、シテ、子方へ諸手なかけ、シラリ　『やがて伴ひ立ち歸り』

にて、子方を送り入れ、其後少し形あり、すべて見計ひ謠ふべし。



櫻川

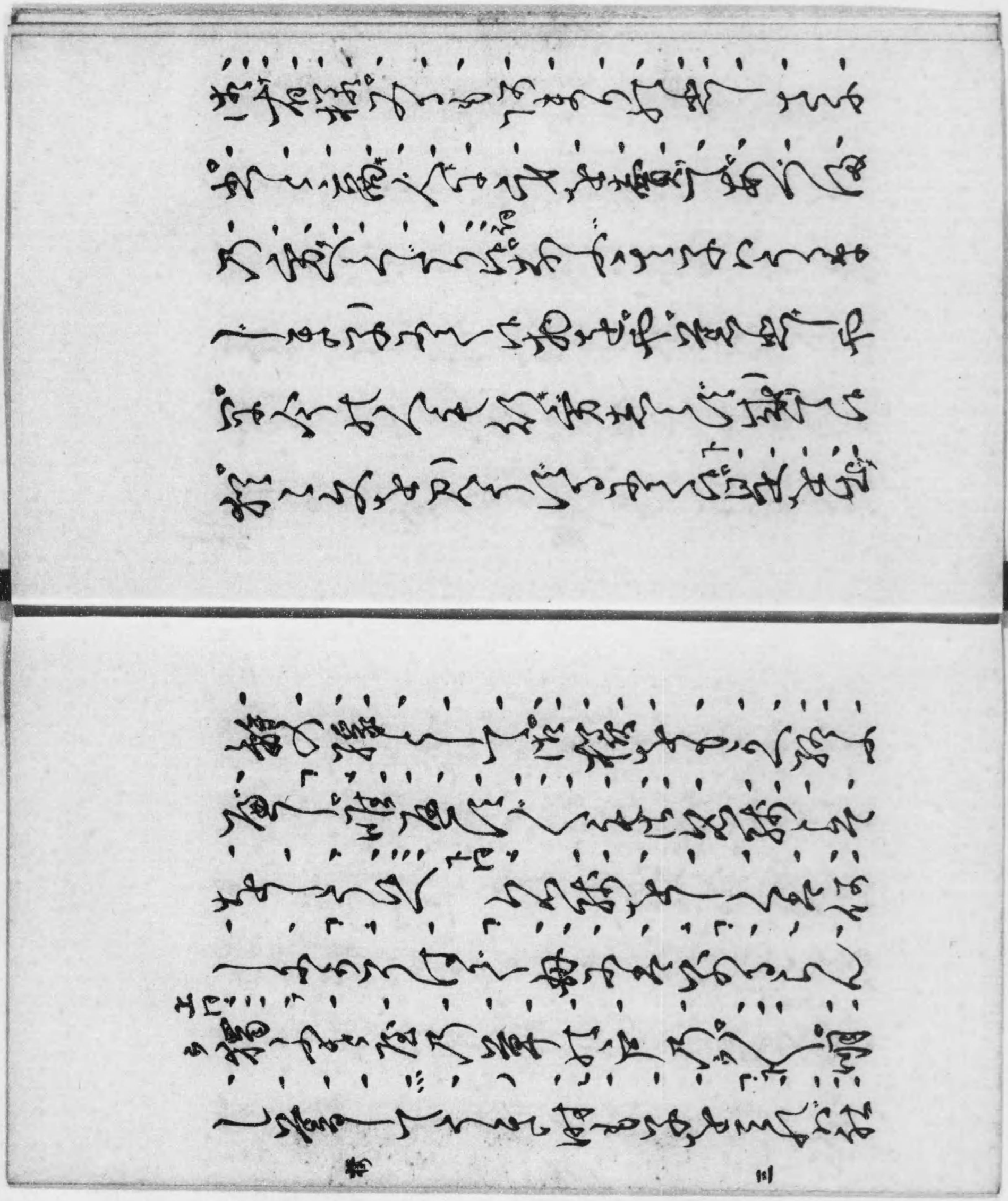
[illegible]

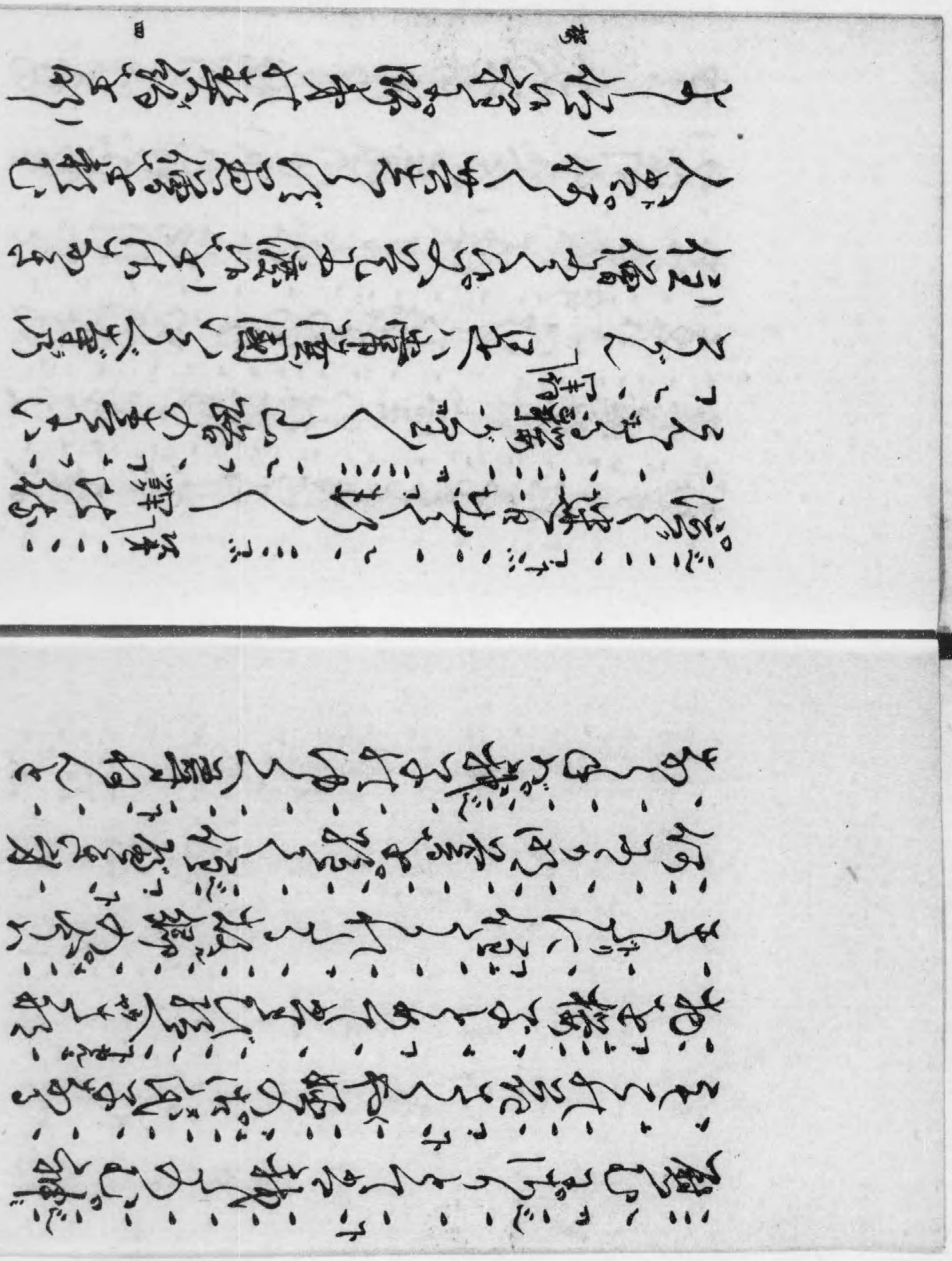
[illegible]

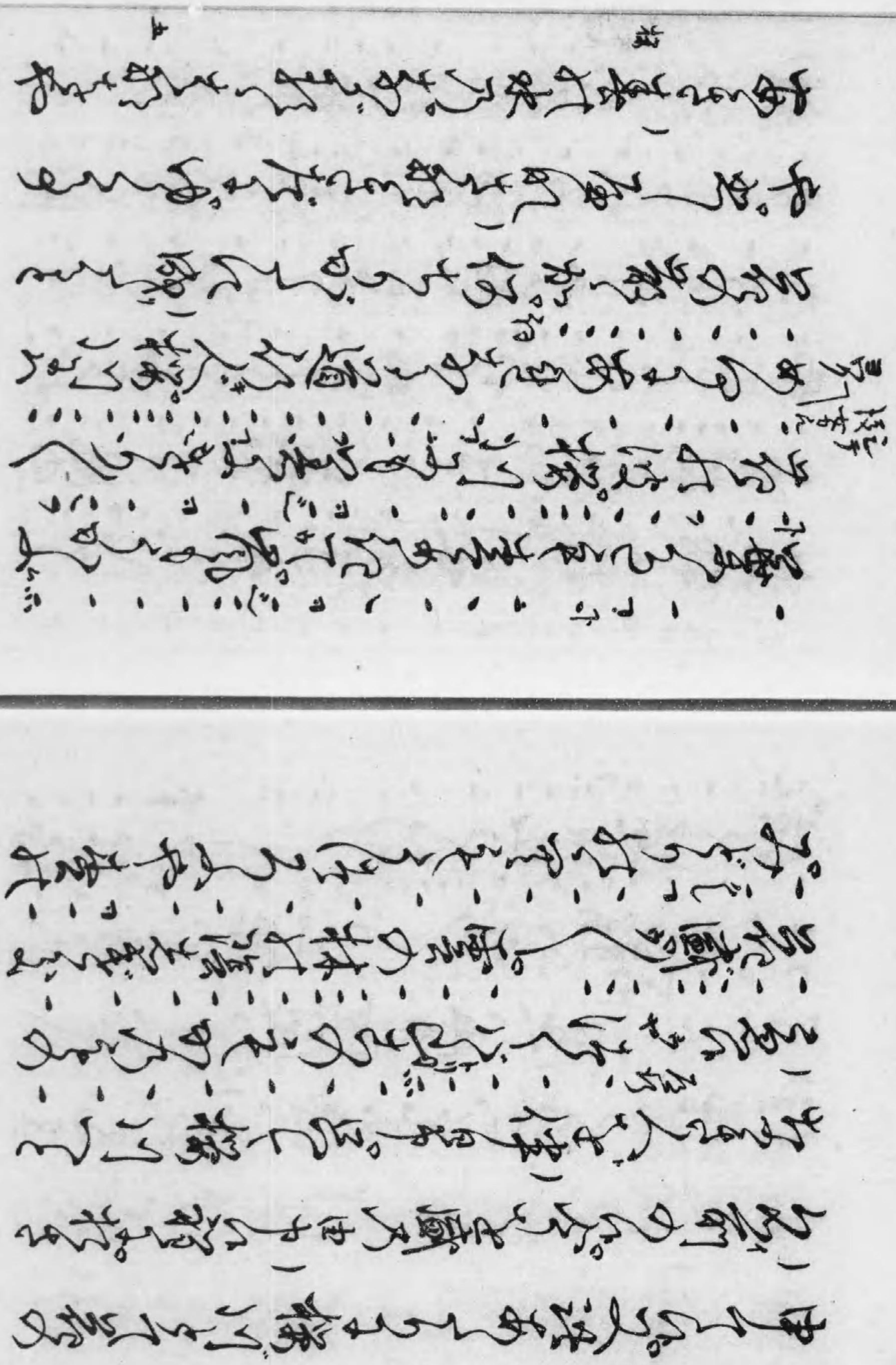
[illegible]

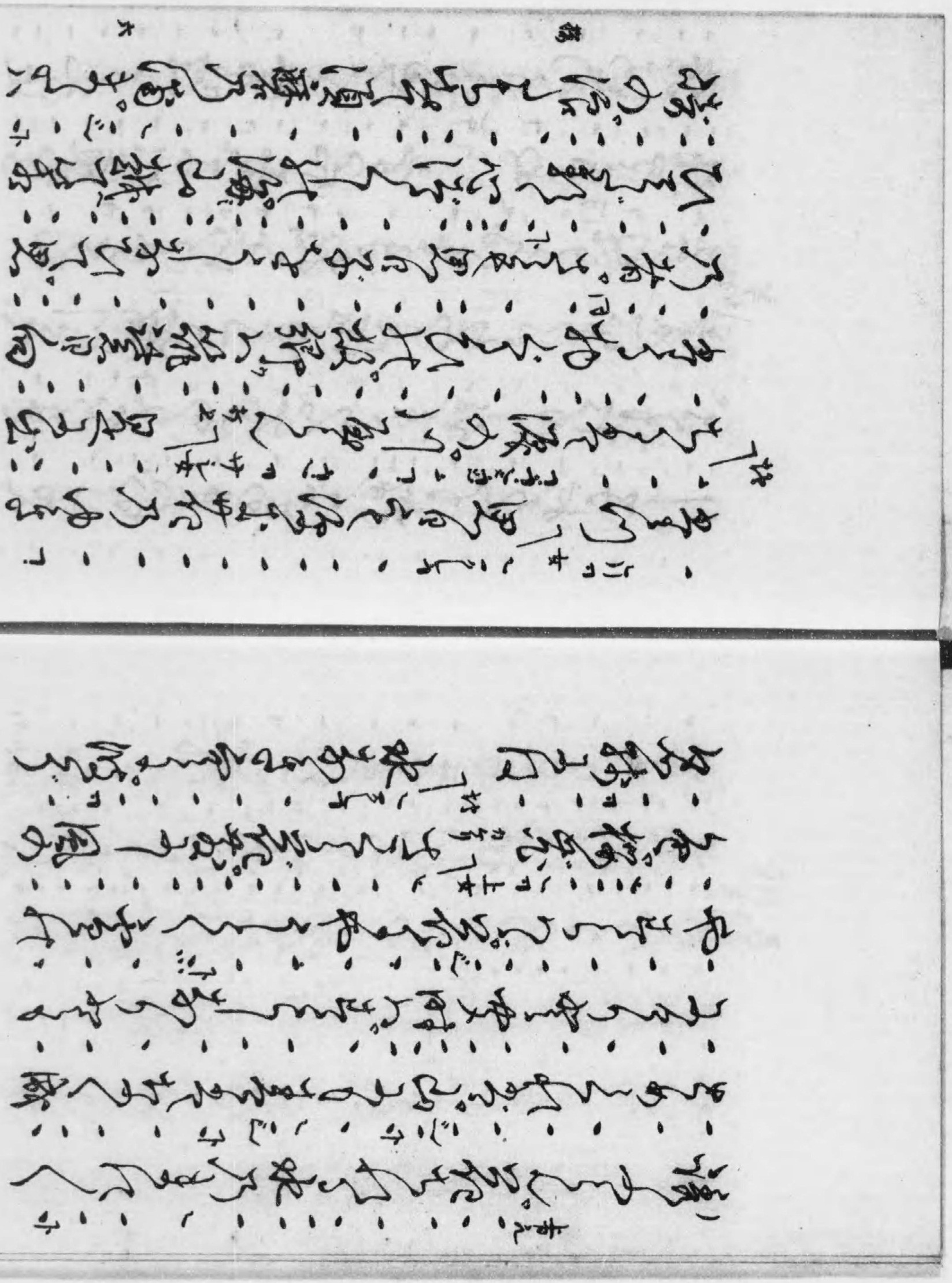
分け代とも桜乃こゝ陽の面みて
桜ぶれ毎ゝ家ゝ惜ゝ屋きゝと
仰ぎ見ぶ今桜ぶ乃毎けゝゝ
とゝ家ぶいぶ迷あゝゝ
ぶゝゝ夢円きゝ
る夢円中ぶ桜ぶれゝゝの陽りか

雅
誰ゝゝ濃ゝゝ　男　けんぶ桜ぶれ
方ゝゝ文ゝゝ迷代ゝゝ惜ゝ
屋ゝゝ仰ゝゝ見ぶゝゝ系
ゝゝゝ惜ゝ屋中ゝゝ惜
雅
美男ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ迷年月乃









[illegible]く常陸とも近
[illegible]やまぢより道なり
[illegible]を指をびつふきん
[illegible]に流きつる桜川とて
[illegible]ぶきあり[illegible]
[illegible]桜ぶあきべかりけん

[illegible]といひしぶあり
[illegible]
[illegible]桜川よ　新[illegible]の雪を波
[illegible]ぶうら吹衣はまぬがみ
[illegible]おさ毋ウヤ[illegible]の[illegible]
[illegible]とるれウ　[illegible]
[illegible]
あ[illegible]ぶ[illegible]のあぶちる裏へ

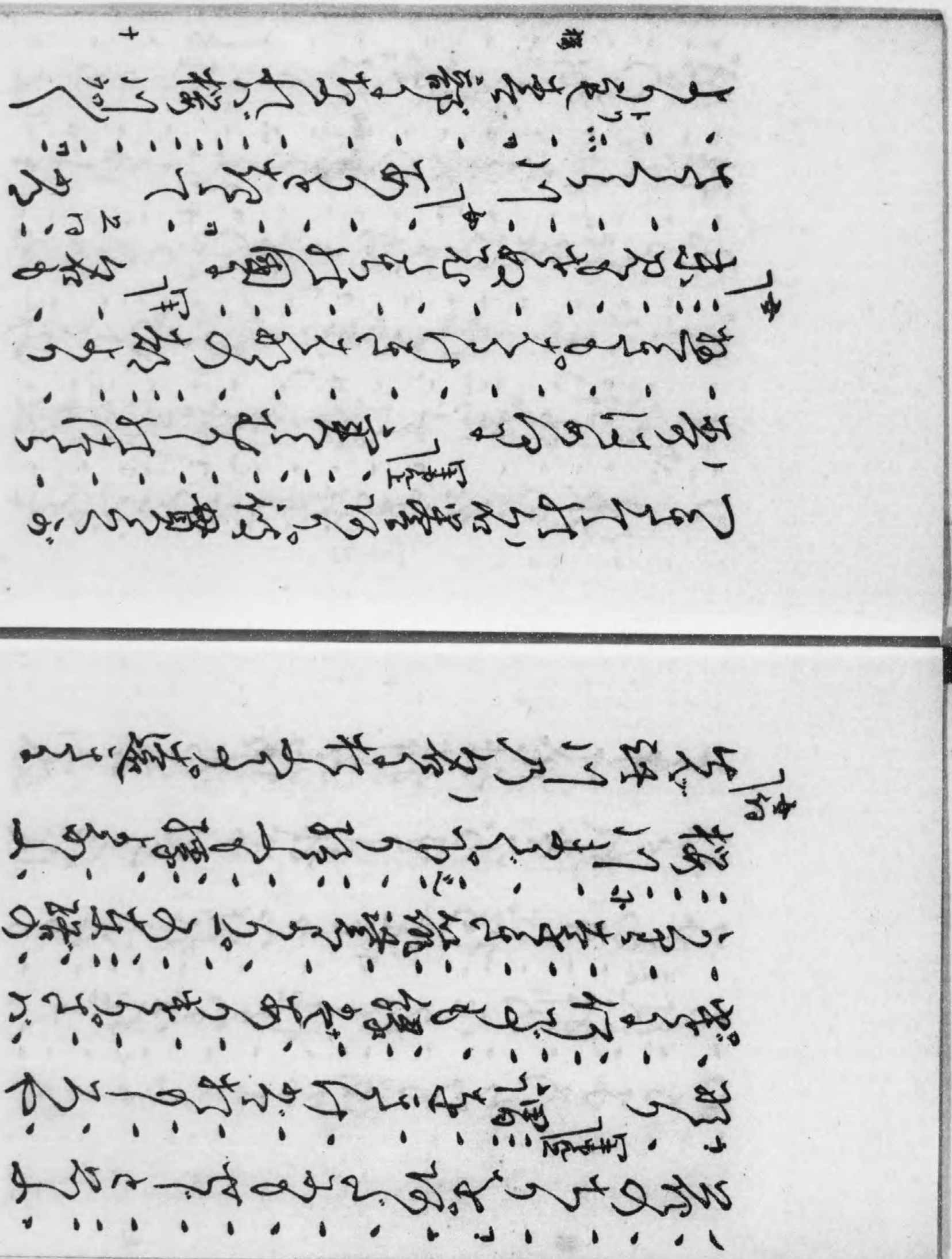
[illegible]

[illegible]

[illegible]

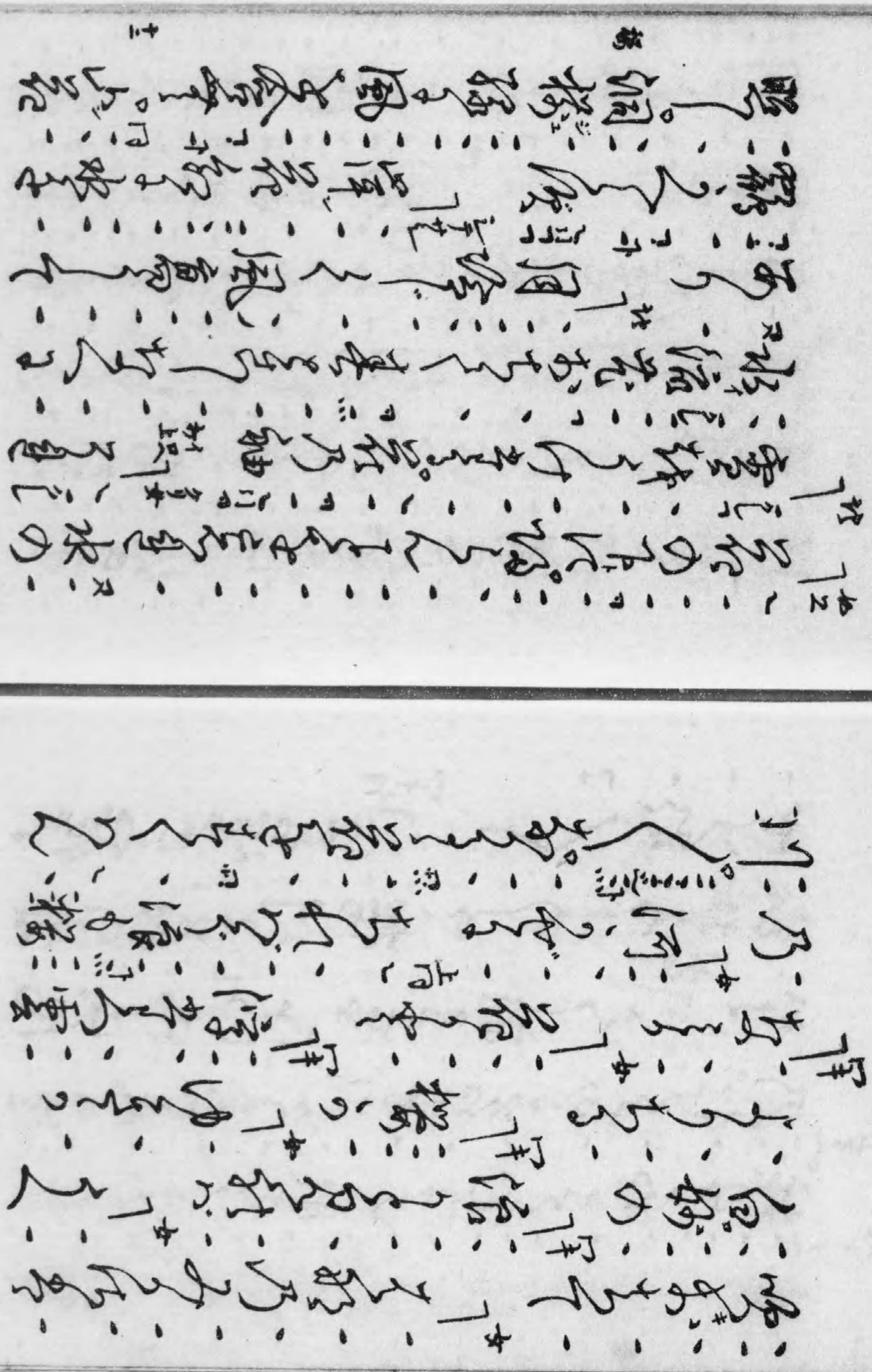
笠痛りやびつくりさぞさぞは
くりさせてくれ給へ扨もおぢ新
ぢさまくもむかしの通り仕
業をとりてはいでそいかゝ
なる事ぞ　☆「はつまで我が
故郷の法師とは誰ぞ姫

と申て御法師を櫻ぶくして突
はなされぞ子を我てゐる氏
子なるまゝ櫻ぶくとゝなれば拾ひて
ちはば法師の法ゝ作ゝ屋姫ぢ
ぬるゝ乃ゝ櫻ぶくとゝ法
川をさぐくとゝなるまゝ



波乃花とりあつめまくよりたちそめと
續れぬる花の雪もはらゆふ
ふるさとの名ばかりなる梅の花はは
ぞ見ぬ人ぞ尾花まぎれぬ野辺の
ふるさとの雪乃深
くゝ水の花定まれるかをうるさかな

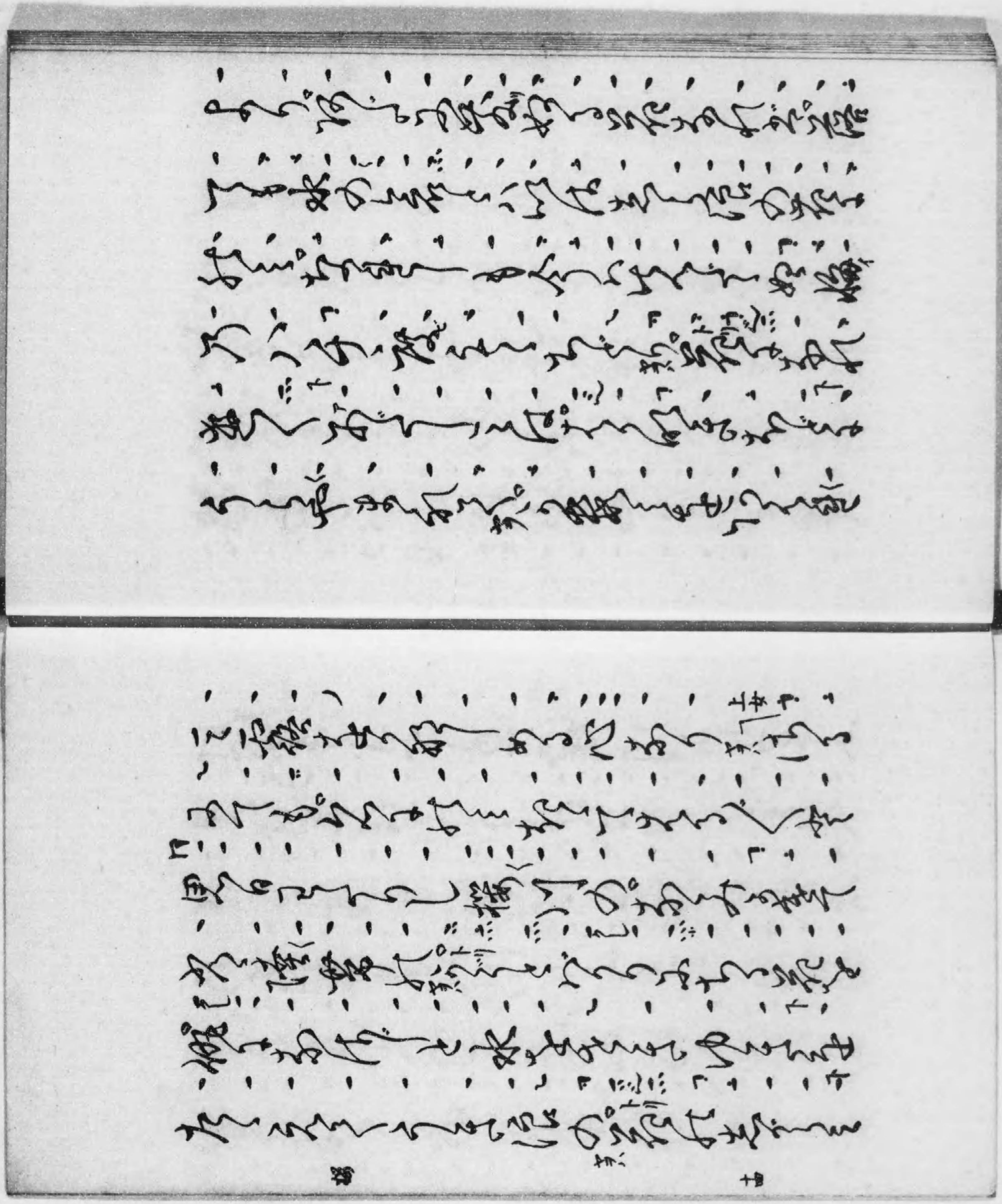
ワキ
花盛りなる梅の
山ばかりのてゝ櫻川なる花の
字 情
乃ばかりなる事をいふ風
吉
乃ばかりなる花をさそふ
流れ
宮
宮ばかりなる花をさそふ
宮ばかりなる山ばかりの櫻



開く錦を似たる間にみちてて
あるがごとし　面白き思ひ出
みちのくに咲きたるを
さくらの花の一枝の
きぬぎぬに咲くを
ひとしなべ桜ぞ思ひ出の

孫あるべし　花と見て
花のうへにあるべし　ゆかるるもの
響きいつる　鶯ちりぬれば
ばかりあるべし　思ひ
月見ていつ　我も夢ちるを
乃こと乃ぐぐ　ぶされず桜

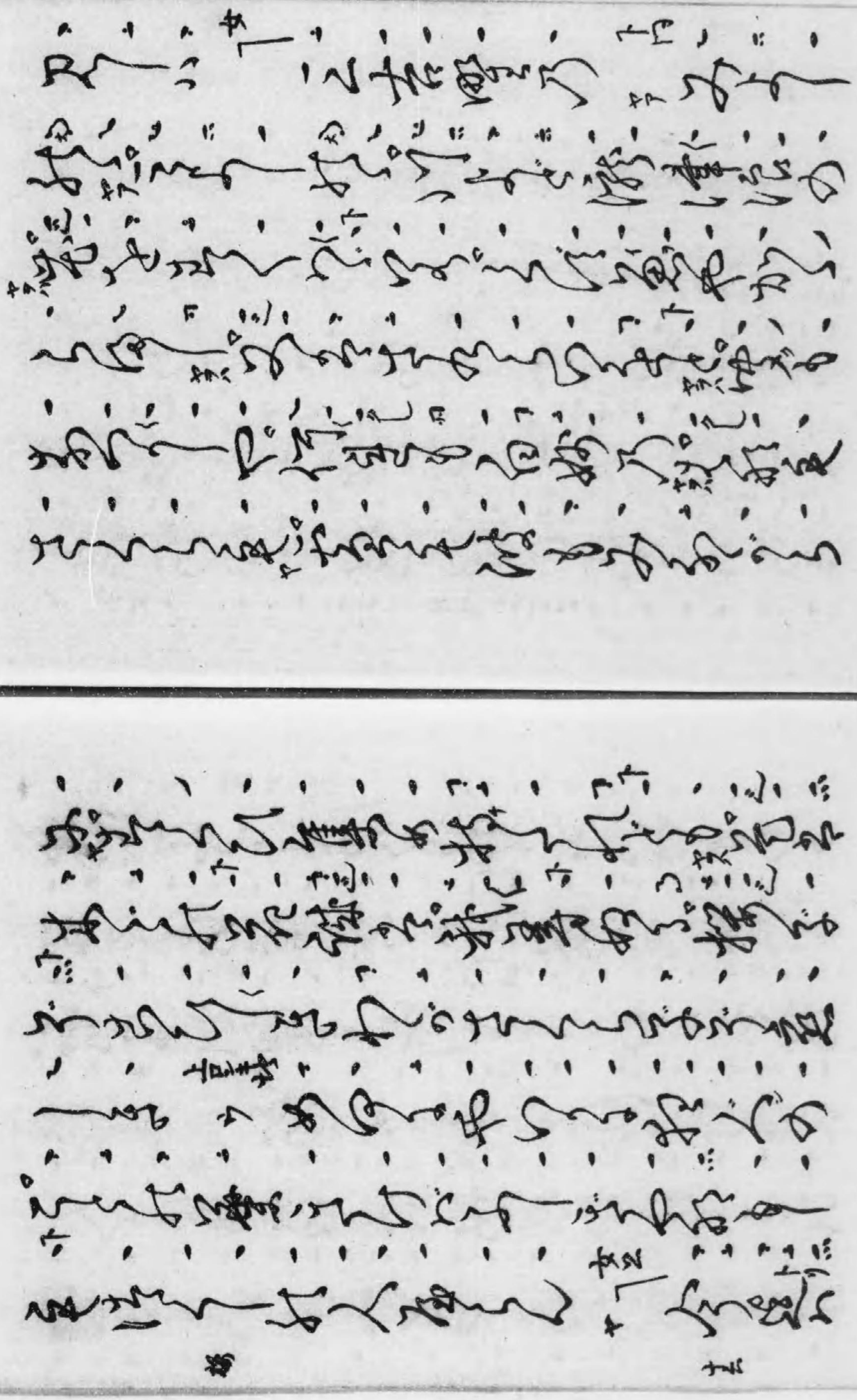
桜

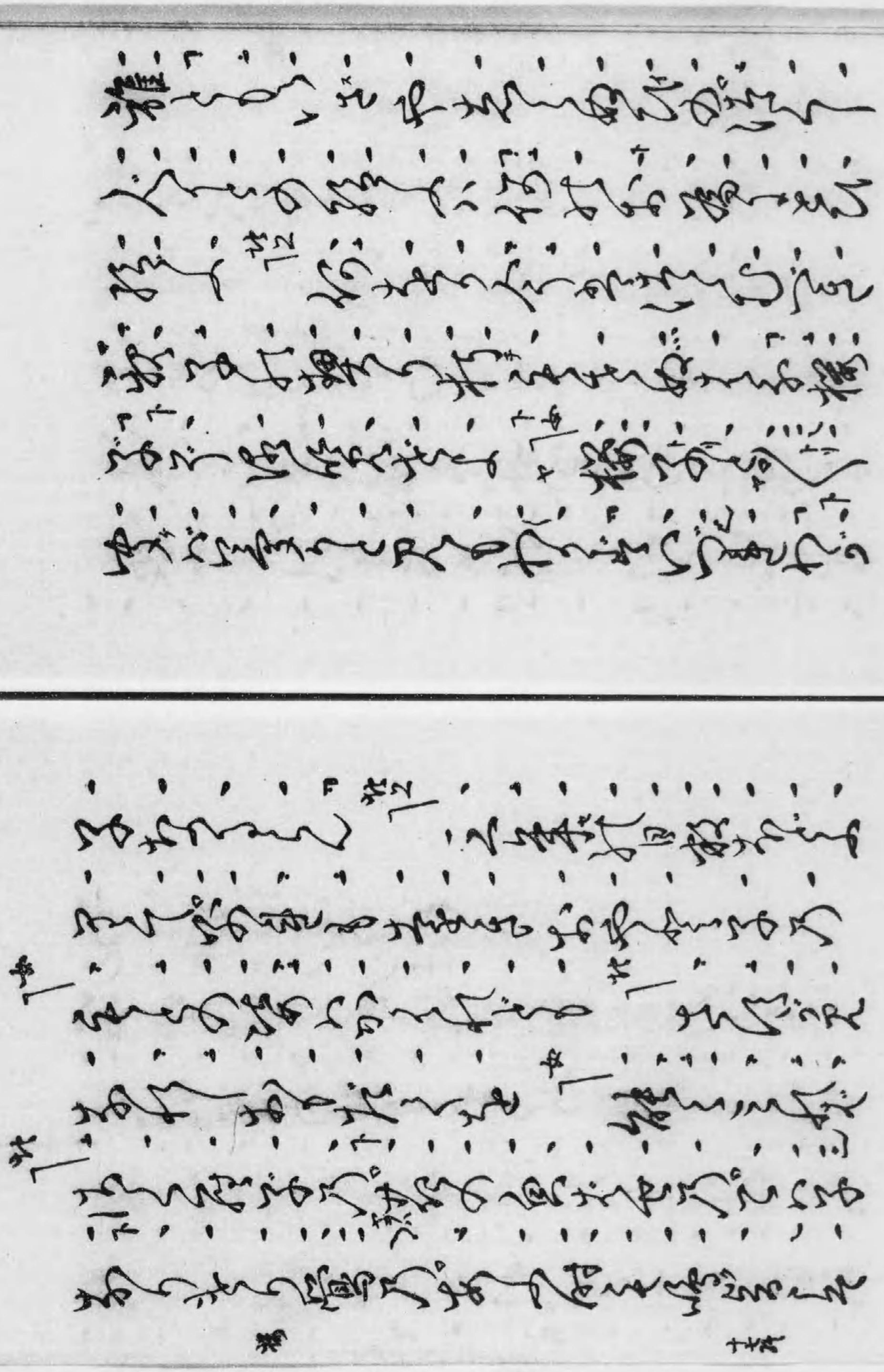


[illegible]

[illegible]

[illegible]





250
903

著作權所有

大正五年四月四日印刷
大正五年四月九日發行

東京市深川區西平野町一番地
著作者 寶生九郎

東京市日本橋區通四丁目八番地
發行者 江島伊兵衛

東京市日本橋區通四丁目八番地
發行所 椀屋謠曲書肆

東京市神田區皆川町二番地
印刷者 田村茂太郎

終